

上 田 勉

(第3次安倍再改造内閣)復興・環境・経済産業の大臣が交代 被災地選出大臣ゼロに
復興・環境大臣は、復興のためのポストではなく、大臣待機組のポストに

8月3日、第3次安倍再改造内閣が発足しました。「東北の復興をさらに加速していく」(安倍首相)とは正反対の大臣の顔ぶれ。被災地はガッカリです。

○被災地の復興を管轄する復興大臣に、核武装論者の今村雅弘氏(比例九州)就任

*復興大臣はこの5年間で6人が交代 *6人の内、被災地選出の大臣は2人だけ

*新復興大臣に、被災地の状況についての、1からの同じ説明の繰り返し、今回で5回目 被災地の首長、もうウンザリ

○放射能の除染や中間貯蔵施設を管轄する環境省 *環境大臣はこの5年間で8人が交代、

*丸川珠代復興大臣 五輪大臣に栄転 *福島復興よりも東京五輪の方が大事か

○原発の廃炉や汚染水対策を管轄する経済産業大臣に、原発推進論者の世耕弘成氏就任

*柏崎刈羽(新潟県)・大通(青森県)・女川(宮城県)の各原発の再稼働早まるか

復興の現場で県民と向き合え 再生担う閣僚、頻繁に交代

「第3次再改造内閣の記者会見で、安倍晋三首相が「東北の復興をさらに加速していく」と強調してみせても、その熱意が伝わってこない。

震災、原発事故からの復興再生を担う閣僚がころころと代わるからだ。

復興の司令塔であるはずの復興相は、震災後に置かれた復興対策担当相を含めれば6人目になる。

除染や中間貯蔵施設の整備に責任を負う環境省に至っては、震災発生時から数えれば8人目だ。

原発の廃炉や汚染水対策を担当している経済産業相も昨年10月の内閣改造から一代で交代になった。

新たな閣僚が、一から本県の現状をみるようであっては、復興再生がいま以上に進むのかと、疑問を抱かずにはいられない。「入閣組」を迎えた議員にポストを割り振るためなのか、復興再生のポストはそんなにも軽いものなのかと疑いたくもなる。

県内では原発事故に伴う避難指示の解除が相次ぐ。避難区域の復興再生は、避難指示が解除され、住民の帰還が始まってからが新たな出発点になる。

国が腰を据えて取り組まなければならない政権最大の課題のはずだ。

復興再生を担う閣僚経験を「腰掛け」や「お飾り」にするようなことは許されない。

新閣僚には、復興途上の県内の現場に足しげく通い、県民と向き合い、県民の声を吸い上げる姿勢を貫くよう強く求める。(編集局長 菊池勝彦)「(福島民友)16年8月4日付け)

【ここより先は“帰還困難区域” 通行止め（双葉町）】



【除染は終わっても、放射性廃棄物の入ったコンパックは山積み（楡葉町）】



【復興大臣になる条件】①初めて大臣になる、「大臣待機組み」の人
②重要閣僚ではないので、任期は1期だけの人
③被災3県出身ではない人